

# 遺跡『大膳寺跡』発掘調査現地説明会資料

平成 25 年 3 月 9 日 四日市市教育委員会

## はじめに

四日市市南いかるが町に所在する大膳寺跡は、古代寺院「大膳寺」があったと推定される遺跡です。大膳寺は平安時代初期に建立され、後期以降に廃絶したと考えられる古代寺院です。西方約 1.5km に所在し、同じく平安時代の創建である垂坂観音寺にも大膳寺に関する伝承が残りますが、現地にはわずかに「鐘撞堂」の地名が名残をとどめるのみとなっていました。

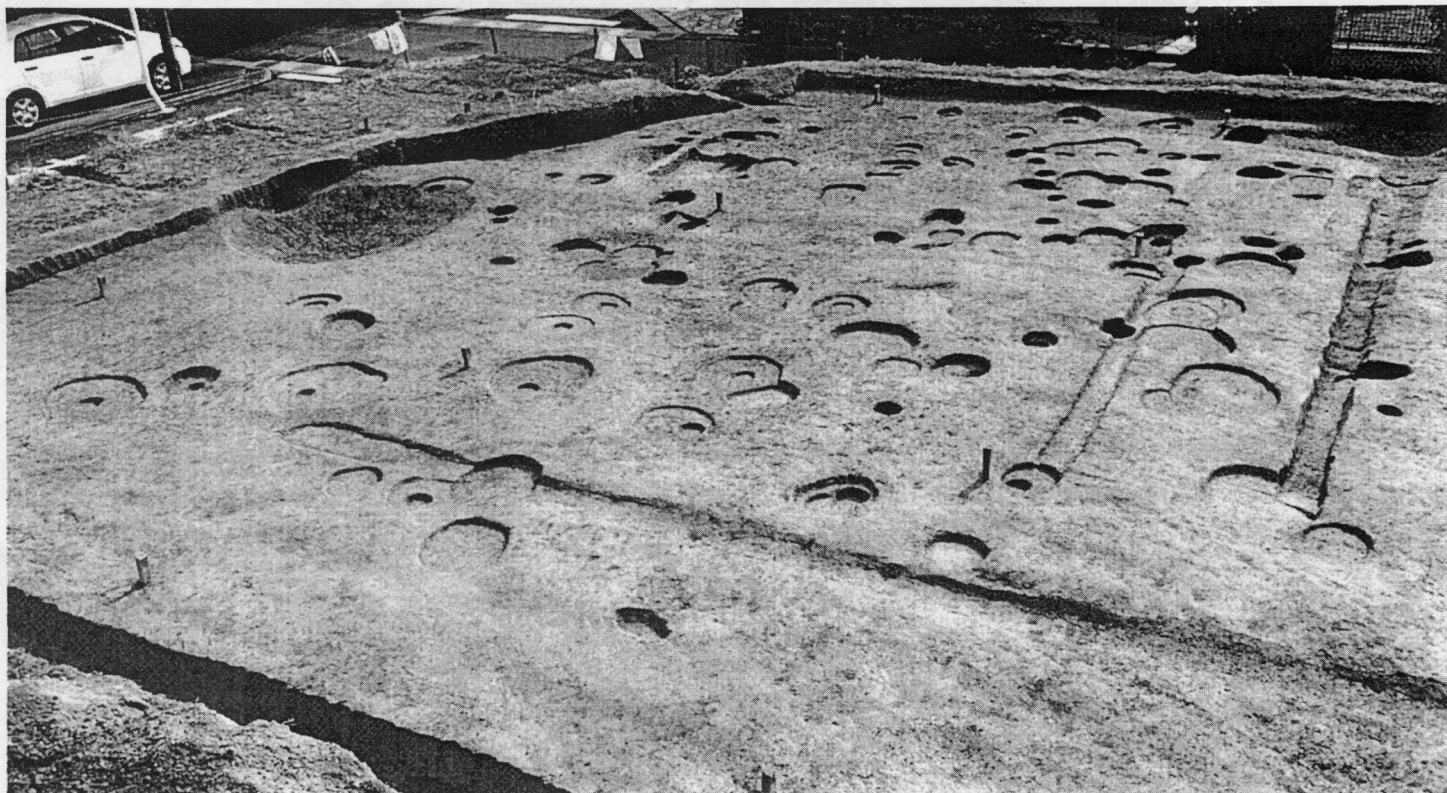
明治の末年に、地元の人々によって軒丸瓦や軒平瓦が発見されて遺跡の存在が明らかになりました。昭和 27 年には隣接地で大谷瓦窯跡が発見され、伝承にある大膳寺が、この地に埋もれていると想定されました。これにより、昭和 30 年に 55,000 m<sup>2</sup>の遺跡範囲のうち一部が市の史跡に指定されました。

その後、住宅地の造成が進んだことから、四日市市では遺構確認のため昭和 52 年度より 5 か年計画で発掘調査を行ないました。調査の結果、平安時代(約 900~1200 年前)の瓦や土器、緑釉陶器、灰釉陶器、土馬などが出土しましたが、直接大膳寺に関わると考えられるような建物跡などは見つかりませんでした。

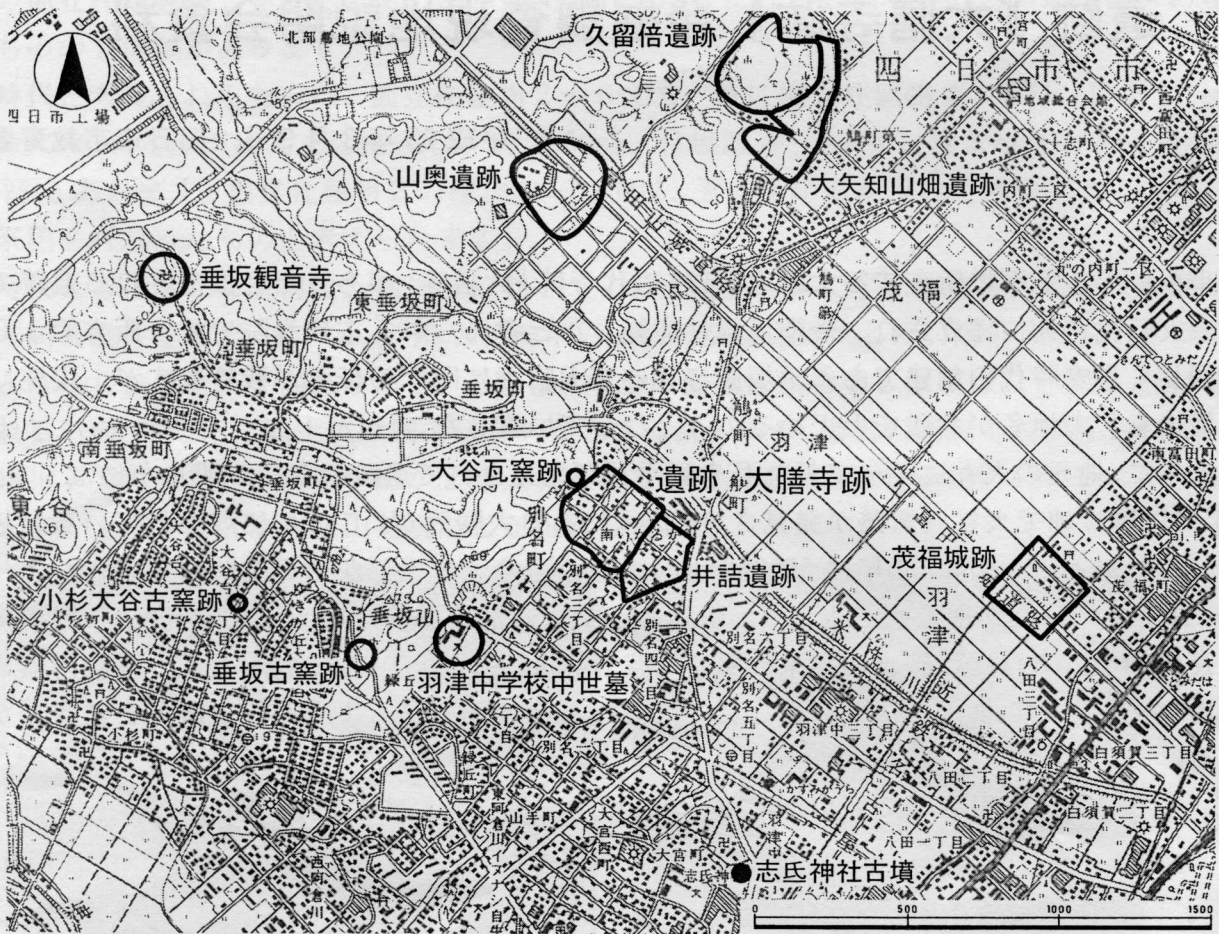
今回は、住宅建設に伴う工事の届出があり、270 m<sup>2</sup>を発掘調査しました。

## 調査成果

調査の結果、平安時代と鎌倉時代の掘立柱建物 7 棟、土坑 3 基などを確認し、土師器、灰釉陶器片や瓦片が出土しました。



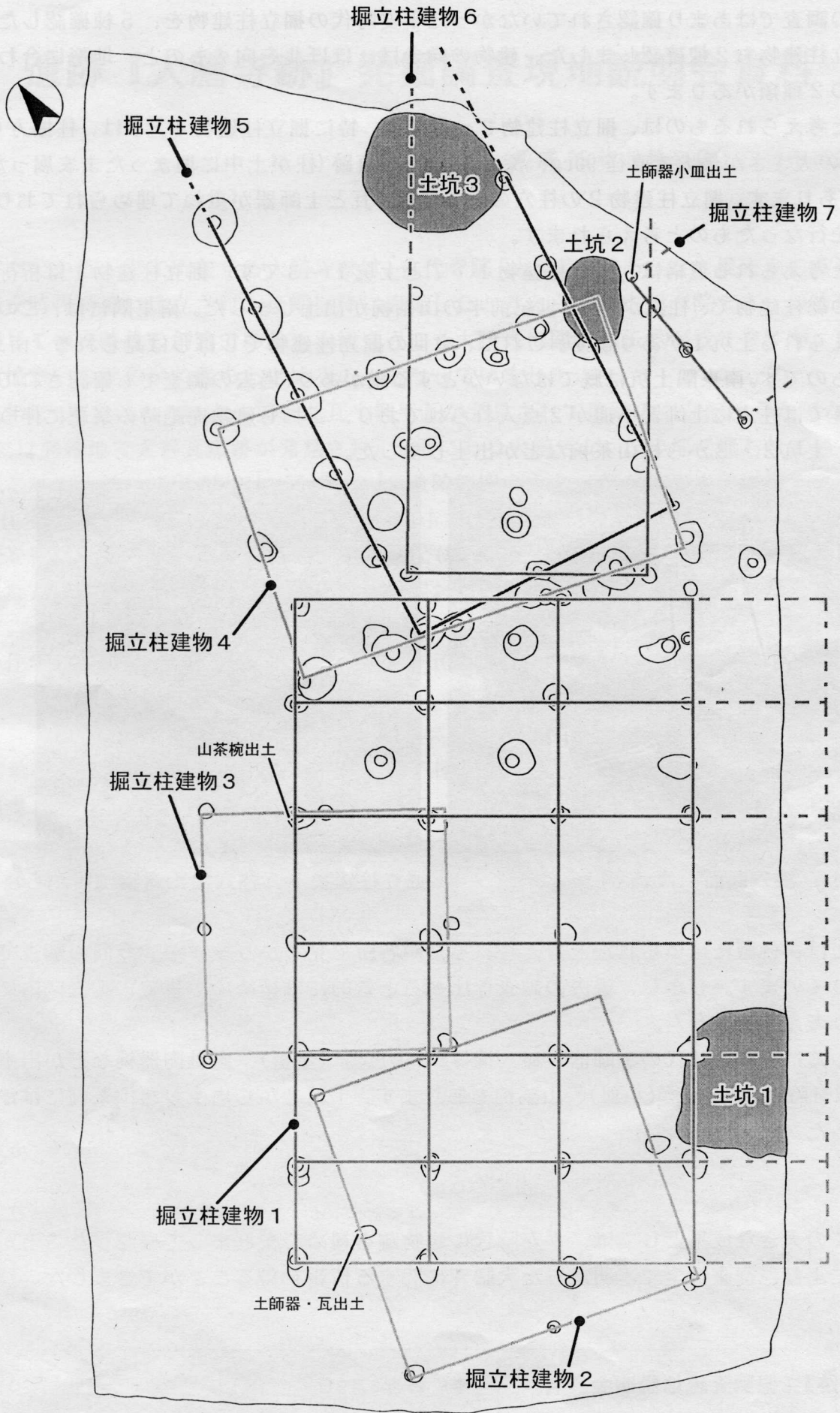
掘立柱建物 4・5・6・7 付近(西から)



遺跡位置図(1:25000) [国土地理院1:25000 桑名・菰野・四日市東部・四日市西部 より作成]



遺跡 大膳寺跡周辺地形図(1:5000) [四日市市都市計画図より作成]



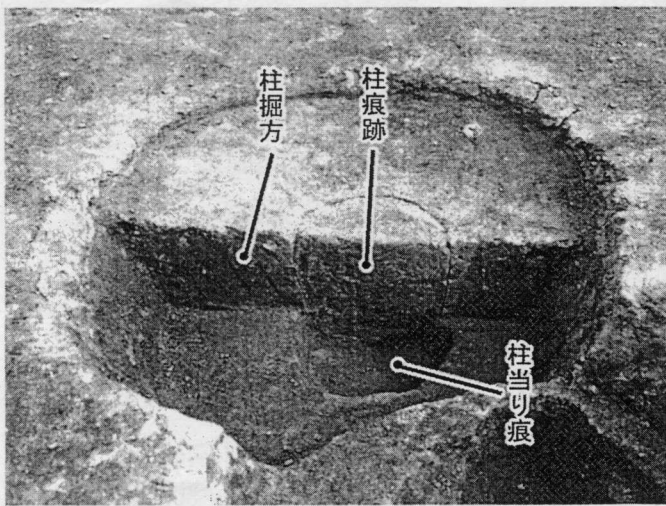
調査区内主要遺構配置図 (1:100)

## ・遺構

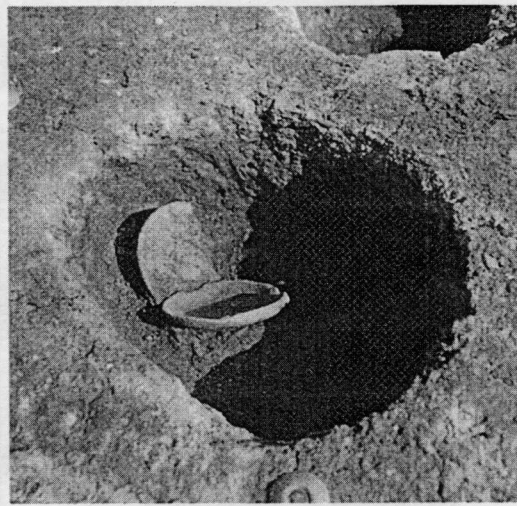
これまでの調査ではあまり確認されていなかった平安時代の掘立柱建物を、5棟確認したほか、鎌倉時代の掘立柱建物も2棟確認しました。建物の向きは、ほぼ北を向くものと、地形に合わせて南東に向くものの2種類があります。

平安時代と考えられるものは、掘立柱建物2～6です。特に掘立柱建物4・5は、柱掘方(柱を据えるための穴)の大きさが最大で直径90cm、深さ60cm、柱痕跡(柱が土中に埋まったまま腐った痕跡)の直径が25cmあります。掘立柱建物2の柱穴の一つでは、瓦と土師器が重ねて埋められており、建物廃絶時に祭祀を行なったものと考えられます。

鎌倉時代と考えられる遺構は、掘立柱建物1・7と土坑1～3です。掘立柱建物1は桁行6間、梁行推定4間の総柱建物で、柱穴から13世紀前半の山茶碗が出土しました。南東隅には、この建物に付属すると考えられる土坑1があります。これは、中世の掘立柱建物でしばしば見られる「南東隅土坑」と呼ばれるものです。南東隅土坑は厩ではないかとする説があり、過去の調査でも確認されています。掘立柱建物7では柱穴に土師器小皿が2点入れられており、これも建物廃絶時の祭祀に伴うものと考えられます。土坑2・3からは山茶碗などが出土しました。



掘立柱建物5 柱穴断面 (西から)



掘立柱建物7 柱穴出土遺物 (西から)

## ・遺物

大膳寺跡では、伽藍に用いられたと考えられる瓦が各所で見つかりますが、今回の調査でも丸瓦と平瓦が出土しています。しかし、過去の調査と比べると量的には極めて少量で、調査区内に瓦葺建物があつたとは考えられません。

土器類としては、平安時代の土師器(皿・碗等)、須恵器(壺蓋)、灰釉陶器碗などが出土しています。また、鎌倉時代の土師器(小皿)、山茶碗もあります。土坑2から出土した山茶碗には漆の付着が認められました。

## まとめ

今回の調査の大きな成果としては、平安時代の建物跡を初めてまとまって確認したことが挙げられます。これにより、従来は全く不明だった大膳寺に関する情報を得ることができました。